

SSKU

秋
2018年度

お元気ですか?
イリアンソ
です。



PAGE 02 理事長の散歩道

PAGE 03 特集「防災を考える」

PAGE 06 がんばれ！イリアンソ

PAGE 07 活動報告

理事長の散歩道
社会福祉法人 イリアンソス 理事長 磯部 光孝
台風24号の被害



写真は、のぞみの家の隣の公園に植わっていた柳の木です。10月1日の台風24号により倒れてしまいました。幸いにも建物・人への被害はありませんでした。最近の気象変動には驚くばかりです。私たちも防災対策をしっかりと考えていかなければいけません。

東久留米市の障害者自立支援協議会の部会である街づくり部会では、当初から防災をテーマに取り組んできました。東日本大震災や熊本地震、西日本豪雨、北海道地震等々連続して起こる災害。しかし、障害のある人たちの置かれている状況は、ほとんど変わることはありません。情報保障、避難方法、避難場所、仮設住宅等々課題は山積状態です。そうした中で、少しでも改善できる方法はないかと部会のなかでも話し合ってきました。そんな中、独自で防災訓練を行っている東久留米市の氷川台自治会の取組みが紹介されました。〈役員主導の訓練から「みんなが主役」の訓練へ〉(HPより)

「平成23年に防災会を設立しました。現在は、春の防災訓練・秋の要援護者支援避難訓練を実施しています。減災には、何気ない訓練を繰り返すことの大切さ、日頃の備えの大切さを訴えるとともに、災害時に地域住民の「支え合い・助け合い」をベースにした地域避

難所(小規模避難所)及び在宅避難の確立を目指した訓練を実施しています。350世帯の自治会で、子どもから高齢者まで「自分の身は自分で守る」を合言葉に250名近くの会員が訓練に参加しています。これは、自治体の動きとは別に自主的に行っています。そして、その防災訓練には、自閉症の子どもとその親も地域の入所施設も一緒に参加している話も聞きました。

そこで、街づくり部会でも自治体にお願ひしたり議論しているだけではなく、学校区で行う防災訓練に障害のある人たちや障害に携わるわたしたちも参加していくことではないかと思えます。障害と一口にいってもその人その人によって、配慮することや支援の仕方が全く違います。その違いを防災訓練を通して感じてもらう。顔と顔を突き合わせていくことができれば、可能ではないかと話し合っています。地域の自治会の組織に障害のある人が加わる機会を作りたいと思います。

そして、最近の地域の防災訓練の記事の中に、「7月22日滝山公園野外訓練施設にて前沢四丁目自治会による、煙体験や炊き出し、AED等内容が盛りだくさんな防災訓練が行われました。車いすで搬送する際のポイントを学ぶことができ、「まちかど防災訓練車」を用いた放水訓練を体験できたのが印象的な訓練でした。」とあります。防災課の担当者も話していたのですが、市民の側から障害のある方への支援について考え始めていると。各地で障害のある人も参加する防災訓練を取り組めるよう広がっていきたくと思っています。

防災を考える



今回の特集は、防災を考えると題して、各事業所の災害に
対する備えや、訓練の様子、課題などを紹介します。毎年、
地震・台風・豪雨と天災が発生する状況です。

その被害の大きさから、今までの常識や経験が通用しなく
なってきたことが伺えます。

そのような中で、災害に対する備えも、更新していかなけ
ればいけません。

イリアンソスでは障害の重い方が多く、特に避難に対する
支援が必要な方が多くいます。車椅子の利用者が多く避難に
時間を要する施設、外での活動が多く所在確認が必要な施設
など、それぞれに気をつけるポイントも異なってきます。

以前にも、防災を考える特集をおこないましたが、改めて
それぞれの防災を考えてみようということになりました。

まだまだ、準備段階や課題も多いですが、工夫をしながら、
備えをおこなっています。

そんな様子を紹介します。

備える

体験をもとに

なかまなの家では災害時に備えて、1〜2ヶ月に一度、地震と火災を想定して避難訓練を行っています。

地震訓練はまずテーブルの下に身を隠し、安全確保を行います。ゆれが完全におさまったことを確認し、頭を護るために防災頭巾やヘルメットをかぶり全員で避難します。火災訓練は火の元を確認し、その場から離れ外へ避難します。その際にスタッフには逃げ道の確保、排煙窓を開ける、消防に通報、初期消火を分担して行います。

皆さん回数を重ねるごとにスムーズに出られるようになってきています。



なかまの家 外観

ここ数年では集中豪雨が頻回していますが、施設前の道路も何度か豪雨で冠水し、危うくあと少しで床上浸水や、車が動かせないという状況までになりました。ご近所の方とも連携し、行政に相談しています。集中豪雨がおきたときには、雨雲の動きに注意し予測しながら、利用者の安全を第一に対応していきます。

想像しながら

施設の実情に合わせて考える

のぞみの家は、車いすの利用者が25名中、13名在籍しています。建物は3階建てで、3グループに分かれて各階で活動しています。車いすの方

が多い順に1階・2階・3階で活動しています。東日本大震災の際には、エレベーターが止まり、2階からスタッフ総出で車いすごと抱えて降りました。また、車いすではない方々も普段の活動中の移動はほとんどがエレベーターです。エレベーターが使えなくなったら非常用の滑り台での避難となりますが、階段や滑り台を使つての訓練の経験がない利用者・スタッフがほとんどです。実際を想定しての訓練の必要性を感じます。今後スタッフ間で話し合い、安心・安全に向けた有意義な避難訓練を実施していきたいと思っています。



のぞみの家
階段と避難用滑り台



積み重ね

防災意識を活動の中から高める

活動センターかなえでは、毎月避難訓練を実施しています。建物も新しくなり、利用者の数も年々増えていくので、更に連携しながら訓練を進めていく必要があります。

事務室から「地震が発生しました」との放送を建物内に入れて訓練を開始します。まずは、「身を守る」ことから始めます。机の下に隠れたり、ヘルメットを着用したりします。

しばらくすると「地震が収まりました」と放送を入れて、次は避難のための準備です。避難経路の確認や、防災頭巾をかぶり避難できるようにします。

活動センターかなえには、急な予定の変更が苦手な利用者が多くいるため、実際に避難する際には、課題があると感じています。課題解決のためにも、日頃から訓練を積み重ねることで、もしもの時にパニックにならずに動けるように訓練しています。



活動センターかなえ



子どもたちと

放課後等デイサービスこのみ

このみは夏休みなどの長期休暇に入ると避難訓練をスタッフ、子どもたちとおこなっています。まずは、焦らず慌てずに行動することです。子どもたち

ちは、大人の言動を敏感に察するので、

職員が冷静に行動することが大切です。近くの公園（避難場所）まで、周囲の危険箇所を確認しながら歩いて行きます。訓練が終了すると、このみまで戻り、昼食は、災害時のためにレトルトカレーを自分たちで温めて食べるということをおこなっています。

必要以上の恐怖感を与えないように、しかし、緊張感を持つて活動の中で実施しています。

防災を考える

同じ法人ですが、立地や建物の構造も違い、もちろん通っている利用者の状況も多様です。各事業所のアイデアを参考にしながら、これからも準備していきたいと思えます。まずは、出来る事から形にして行く事が大切です。



このみ 外観

がんばれイリアンソス

「初めてのバイトで学び得たこと」

奥水駿斗さん

こんにちは！現在、東京未来大学で心理学を専攻している奥水駿斗です。今回、僕は夏休みに火曜日と木曜日の10時から16時まで活動センターかなえでバイトをさせていただきました。11日間という短い期間でしたが、多くのことを学び、経験して達成感を得ることができました。

活動センターかなえを見学した時の印象

最初に活動センターかなえを見学した時とても綺麗な施設だと思いました。利用者の方々は賑やかな方が多く、とても楽しそうでした。

初日

バイト初日にもかかわらず、遅刻をしてしまい職員の方々に迷惑をかけてしまったと思うのですが、かなえの優しい職員の方々は「あまりきにしないでいいよ」と温かく迎えてくださいました。僕は主にちゅーりっぷ班とだるま班を担当することになり、それぞれ

の班の利用者の方とペアを組み仕事、創作活動に取り組みました。最初はどっちの班でもわからないことがあったのですが、そのことで質問をすると職員の方々がとてもやさしく丁寧に教えてくれたので困り果てるということはありませんでした。利用者の方々がバスや車で寮や家に帰った後、掃除も手伝わせていただいたのですが、職員の方々が隅々まで掃除しているのを見て、「だからここはこんな綺麗になっているんだ」と納得ができました。

二日目

二日目からの仕事は初日と変わりませんでした。回数を重ねることに、少しずつ自分で工夫して利用者の方々と関わることをできるようになったと思います。

そのおかげで初日は関わりが少なかった方ともハイタッチしてコミュニケーションをとったりすることや仕事を一緒にすることが増えました。

職員の方々とも休憩の間に質問や会話をすることが増えてとても楽しかったです。

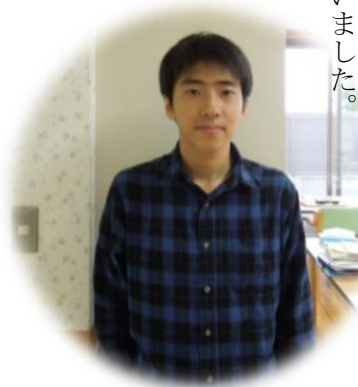
経験して

今回、僕はかなえの施設長からかなえの話を受けてバイトをさせていただくことになったのですが、その話をもし断っていたら成長することができなかったと思います。このバイトのおかげで自分は働くこと、障害を抱える方との関わり方、日々の中にあるチャンスを大事にすることを学びました。

これから大学生として生活していく中でいろいろな機会に積極的にチャレンジしていきたいと思います。読者の方がこれを読んで少しでも何かに挑戦してみようかなと思っただけであれば幸いです。

最後に

最後まで読んでいただきありがとうございます。そしてかなえの職員の皆様、短い期間ではありましたが、お世話になりました。本当に貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。



通所の窓

なかまの家では、毎月班毎でレクを行っています。8月は、全体レクと称して皆でお菓子を作って食べながらゲームや写真を観て楽しむ1日があります。7月頃よりどんどん会(自治会)で何のお菓子を作るのかを話し合います。今年の夏はとても暑かったので、クリームソーダー、カキ氷、等々色々出ていましたが、アイスをのせたパンケーキに決まりました。当日は、調理班と会場作り班に分かれて、それぞれの担当をきちんとこなし午後の楽しいレクに向けて頑張りました。



生活寮うみ・そのの外壁修繕を行っています。設立して10年が経とうとしています。まだ外壁については大丈夫であろう：と思っていたところ、外壁のタイルのつなぎ目から雨水が浸透してしまふ恐れがあることが判明。やはり外気にさらされている以上、劣化を食い止めることはできなかつたようです。壁を塗り替えるといった目に見えた形での修繕ではないため、一みみてわかるといった状況ではありませんが、細部にわたって業者の方にお願ひしました。安心して住みやすい住居。今後も、日ごろの点検、こころがけていきたいものです。

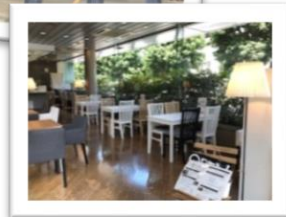
生活寮の窓

それぞれ進級した子どもたち、学校も夏休みが始まり朝から元気に子どもたちがこのみに来ていました。夏休みには、昼食作りをみんなで行ったりエアドームを膨らましてプールで遊んだりとしました。昼食作りでは子どもたちと買い物に行つて食材を買つるところから行つています。自分たちで作つたご飯はやはり美味しいようで苦手な食材も食べていました。



放デイの窓

カフェてんがオープンして、4カ月が経過しました。スタッフも少しずつ慣れてきて、接客もスムーズになつてきました。



うどん・ケーキ・コーヒーも好評です。これから、チラシ配布などを通して、宣伝していきたい。更にも多くの方々に来ていただけるようにしていきます。今回、チラシを同封させていただきます。

Cafe てん

地域の人の憩いの場を目指していますので、お気軽に足をお運びください。

ご寄付をいただきました(10月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様

ありがとうございます。

法人行事

○事業報告会

12月15日(土)

10:00~16:00

於:イオンホール

(イオン東久留米2階)

※今回は『食』をテーマにレポート発表します。是非、お越しください。

～職員をつぶやき～

9月6日の北海道地震。私の故郷、旭川の友人に聞いたところ、停電がしばらく続き、近所の人や友人達と助け合い、備蓄のありがたさが身に染みたそうです。再度、私も家の備蓄を確認したいと思います。
なかまの家 福田恵

《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室

Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18

Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

《編集委員会》

磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・福田恵
中西亮太・疋田史江・斉藤加奈子
ホームページからはカラーでご覧いただけます。

イリアンソス



定価100円

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里 2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢 2-20-51

042-452-6405

042-452-6415 (F)

kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町 2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里 4-2-7

042-476-3400 (F兼)

sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里 5-10-10

042-420-9943

kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町 3-8-23

042-473-9667

表紙の写真

なかまの家 旅行の一枚。

カラオケ楽しい～！！